

# 203

2023. 3. 19

# 長崎郵趣

鎌倉殿の13人Ⅳ  
伊東弘章

## 鎌倉殿の13人 THE 13 LORDS OF THE SHOGUN 源平の歴史とゆかりの地



承久の乱：木曾川戦い



851-212  
長崎県西

伊東弘章様

横浜金沢文庫風景印：北条実時と和名寺

# 鎌倉殿の13人〈IV〉—承久の乱からその後

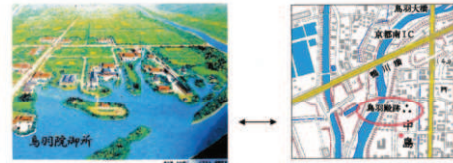
伊東 弘章

「承久の乱」後、朝廷の後鳥羽上皇ら三上皇を配流した北条義時は、執権として尼將軍（姉・政子）と鎌倉幕府の執権政治を司る。しかし、義時はその3年後に死去。また姉・政子も翌1年後に死去する。その後も北条氏の執権政治は17代に亘り鎌倉幕府を継いでいくことになる。

「鎌倉殿の13人」作品はI～IIIで終了の予定が資料等を調べている内、鎌倉8代目執権北条時宗の時代、元寇（蒙古襲来）が起きている。長崎県の対馬・壱岐・鷹島に襲来し、元寇軍が蛮行を重ねた歴史など。また私の生活域の女の都や宇久島（佐世保）が平家伝説の地だった事を知る等で、「鎌倉殿の～」〈IV〉作品へ挑戦した次第。それにしても郵趣的材料が少ないなかで、長年溜め込んでいた諸々の雑物コレクションがリーフ構成の中で役に立った。

完

## △承久の乱、後鳥羽上皇の挙兵・・・： 洛南（京都）・隠岐（島根）



自由国1003～1120年、以後1090年鎌倉幕府が作り、鳥羽上皇御所を造営した。この御所は、鳥羽宮・鳥羽院・鳥羽院宮とも呼ばれ、現在の南区上鳥羽、伏見区竹田・中島・下鳥羽一帯にあり、全幅180町に及び広大なものであった。後白河法皇没後、後鳥羽院1103～60も28年間：鳥羽院をこの地で行った。鳥羽院御所は御所定家院。



1221（承久3）年3月14日、後鳥羽上皇は御所に「隠岐を頼む」（かぶのりぞらむ）と称し、西園を中心とした諸国の武士を召集、呼び出しに急（な）かた京都守護の伊豆守を降参し、北条義時討討の宣旨を出した。両軍は3月15日に京を離れ、三浦義村ら鎌倉の有力御家人にも上皇の使者が送られた。上皇方の武将の中には、三浦義村（三浦義村の弟・義村の弟）も含まれ、義村が義村に送った手紙には「勤王にしたがって義時を討つるに」と書かれていたのだという。義村は、承久の乱と義時に従い、軍の最前には同心しないことを伝えている。後鳥羽上皇の義時に従う御家人に押しつけて、義村は、「彼が天啓（てんけい）の意は必ずしも高く、津より高い・・・」と聞いて御家人の結束を固めたのだという。

宇治川を突破した幕府軍は6月15日、勢いのままに入京すると京方の武士や僧侶、公家と密に交渉していた。そして、義時は全面降参し、義時討討の院宣を出した後鳥羽上皇は、洛南への配流（はいる）が決まった。隠岐も配流へ、また上皇の隠岐へ送り、御家人の院が遠征となった。



80円切手



63円切手



「鳥羽院」

「鳥羽院」によれば、後鳥羽上皇1209年8月5日、出雲国大田郡（現在の島根県大田町）から京都へ逃れ、日本海を渡った。御所（鳥羽院）御所（鳥羽院）御所（鳥羽院）御所、今で言う隠岐島の中ノ島・島（島）町である。おぼつかずとみられる一行は京都にもまれながら、鳥羽の南側の「鳥（き）」といふ小さな島に降り立った。

2

## 鶴岡八幡宮と流鏝馬神事

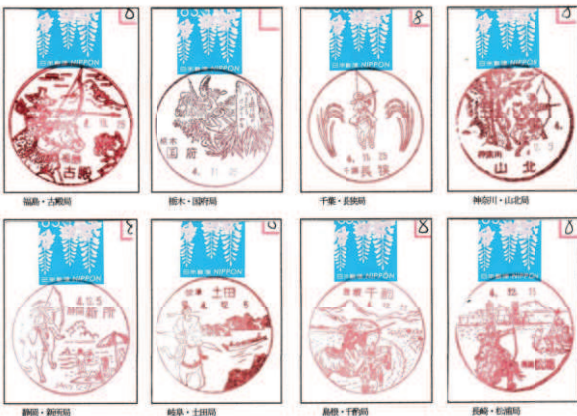
鶴岡八幡宮例大祭で奉納される流鏝馬は、1187（文治3）年8月15日、源頼朝が放生会を催した際に奉納したのがその起源だという。



流鏝馬神事（鶴岡八幡宮）



切手：地方自治体発行60円切手、鎌倉市。鎌倉市/下野 風景印：鶴岡八幡宮と流鏝馬



## 神御前と白拍子の姿

～ 吉野山 峰の白雪 踏み分けて 入りにし人の 跡ぞ急かき ～  
～ しずやしず しずのおだまき 繰り返し 昔と今にすすもかな ～

神御前（白拍子）は、源頼朝の妻。1186（文治3）年、長経が元頼朝と不仲になり京より逃れたとき、静もこれに同行。しかし、翌年源頼朝が長経と別れたのを知り、静も京に送られて京河を分けた。同年7月鎌倉で長経の子を出産するが、男児であったのは源頼朝に伝えられ、静は京に帰された。その後の消息は不明。頼朝・政子夫妻の命により鶴岡八幡宮境内で葬られたとき、長経への恋慕の想いを歌ったことは有名な。



高橋 志麻呂：白拍子とカーネーション



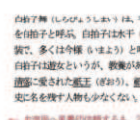
高橋 志麻呂：白拍子と蓮花



吉野山



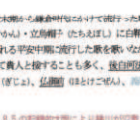
白拍子



白拍子と蓮花



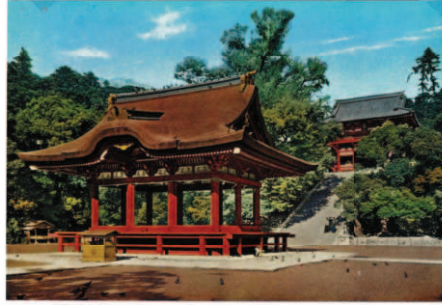
白拍子と蓮花



白拍子と蓮花



白拍子と蓮花



鶴岡八幡宮の御殿



「白拍子」

高橋 志麻呂

鶴岡八幡宮の御殿

神御前と白拍子の姿

3-4

○湘南に残る義経伝説：茅ヶ崎・藤沢（神奈川）



義経の騎馬像 / 白旗神社

切手：ふるさと「神奈川の花」 郵便局周 集郵印：白旗神社の義経・弁慶像

時代を超えて愛されてきた義経ゆかりの地には様々な伝説、逸話が残り、ここ湘南（茅ヶ崎、藤沢）も例外ではありません。平家を滅ぼした後、鎌倉入りを拒まれた源頼朝は、兄頼朝に切たる思いを訴えつた。その懇願状が残る護国寺。鎌倉の地で言葉交わされた後、義経の首が坂田を通り、漂着した首を洗い清めた首洗井戸。源経を祀り、義経・弁慶二基の神典を奉じる白旗神社。「白旗大明神 神護」と記された源経の位牌がある狂歌寺。弁慶塚に残る常光寺。希代の勇猛と軍略を持つ故の源経の忠魂とそれを支え続けた弁慶の魂が残る地・湘南である。

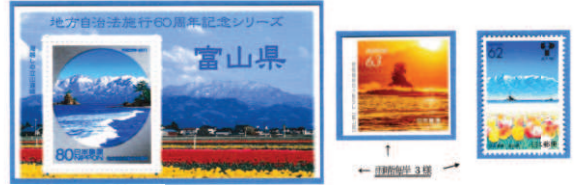


【郵便局】茅ヶ崎市のマンホール

5-6

○義経伝説の面跡海岸・義経岩：高岡（富山）

平家追討に成功した直後より、源頼朝は兄である頼朝と対立し、やがて全国に追討の令を出されるに至って京都より脱出、奥州藤原氏を頼って逃遁をおこなう。この時に辿った経路は諸説あるが、最も有力なものが北陸を山伏・権足堂で東大寺再建の勸進をおこなうと見せかけて北上したとされるものである。それ故、石川から富山にかけてさまざまな源経伝説が残されることになる。この義経岩もその有名なものの一つに挙げられる。



友部（左）と源経（右）、青柳には山崎峠

越中まで辿り着いた義経一行であるが、この海岸で急な崖に遭ってしまった。そこで弁慶が大きな岩を持ち上げ、一行が引掛りできるようにしたというのが、この源経伝説である。実際、この巨石は海岸に面した部分が大きくせり出しており、人が引掛りするには十分なスペースがある。また岩の頂上には源経神社が設けられている。



日本国書大蔵



【郵便局】高岡市のマンホール

このあたりの地名である源経は、この源経一行伝説に由来するものであり、地名の方が地名に付けられたケースの一つである。伝説の名前が文獻に現れるのは江戸中期といふことらしい。そして現在源経は、海から立山連峰を臨む絶好の景観地としても魅惑している。

●平家落人の里 ～湯西川～：日光（栃木）



「落人の里」として知られる湯西川温泉は今からおよそ八百有余年の昔、源平の戦いで敗れた平家は合衆に逃れ落ちた。平忠盛公は湯西川へ・・・

今でも湯西川では 追討者の目をかすめるため、関（とき）を告げる鳥を飼わぬ、狸のぼりを撫子ぬいといった風習が残っている。



●平家落人の里 ～祖谷溪谷～：祖谷（徳島）



秘蔵・祖谷に伝わる平家落人の伝説とは・・・

平家物語では、平家は1184年堀河の戦いで敗れ、弟・空徳天皇は入水した事になっています。その際空徳天皇の甥である平家経（後に、弟の名で空徳天皇に改名したと伝えられる）以下、平家経と義経も源氏の武者2人を道連れに船で逃げ込みました。

しかし、祖谷に伝わる落人伝説で書かれているんです。 運/備で入水したとされる空徳天皇は、実弟源氏で、空徳天皇の弟の安徳天皇を連れて阿波山脈を越え、山崎、祖谷へとたどり着き、この地で身を伏せました。しかし、空徳天皇は高岡の町でわずか8歳で祖谷の地にて亡くなってしまいます。空徳天皇は、平家再興を断念。そのまま祖谷で暮らしました。祖谷で今でも生活している阿佐家は平家の子孫だといふ。



南四国



郵便局の周 集郵印 義経伝説の村

平家一帯の伝説を秘める、秘蔵「祖谷」にある4つら橋。シラタチカズラ（長さ約6トンで作られたもので、長さ45m・幅2m・水面14m。昔は山溪谷地帯の唯一の交通施設であった。3年毎に枯幹とがけられる。旧暦定休重要有形民俗文化財）平家伝説の「秘蔵」がすべてです。祖谷の4つら橋を渡ってすぐには50mくらい行くと、落差約50mの滝が現れます。



祖谷の4つら橋 H15.5.24

地方自治法施行60周年(徳島県) JUN.2.2015

切手：地方自治法施行60周年 徳島県「祖谷の4つら橋」 集郵印：西祖谷村 秘蔵の村

7-8



